

私のお薦めコーナー お財布と家族にやさしい競馬の楽しみ方

佐々木 裕 子

1. 最近、競馬が面白い

私がこの2～3年、楽しんでいるのが「競馬」です。日本中央競馬会主催、最も格の高いGⅠレースの馬券を買い、テレビ観戦しております。ですが、ギャンブルは好まず当てる才能ありません。なぜ「競馬」ファンになったのか、その経緯と、お財布にも家族にも優しい楽しみ方をご紹介します。

2. ハマったきっかけ

元来、ドラゴンクエストなどのゲームは好きな私。2022年、当時社会現象となっていた「ウマ娘プリティダービー」(アニメ・ゲーム)で馬たちのドラマに触れたのが競馬にハマったきっかけでした。

このコンテンツでは、かつての名馬が女性キャラクターとして擬人化されており、実際の出来事に基づいたストーリーが展開されています。挫折しながら成長する物語に魅了され……3度の骨折を経験しながら優勝で引退したトウカイテイオー、その好敵手ともされたメジロマックイーンなどの物語など……ドラマ性にハマってしまいました。

そして、夫が以前から競馬好きであったことと、長男が同じゲームプレイヤーだったことで、一層楽しみが増していきました。ゲームのコツは長男、実際の馬やレースについては夫から、どんどん知識が提供されるのです。

キャラクターである馬たちは、現役で活躍中の馬たちの親。そのつながりがわかり始め、土日の午後にはテレビで競馬を見るようになり、現役で走っている馬たちの今のドラマにひかれていきました。

3. 「予想して、ちょっと買う」

楽しみ方の一つ目は「予想して、ちょっと買う」です。ある年末、ファン投票選出馬が走るビッグレース、有馬記念で馬券を買って的中してしまい、「買って観たほうが断然面白い」と気づきました。



写真-1 私を沼に引きずり込んだ
2022年有馬記念の当たり馬券

100円、1点でも買うとなると、どの馬が勝つか、本気で考える自分がいる。「この馬が気になる」程度ではなく、過去のデータ、コース特性、レース展開、馬の特徴や調子、騎手のことまでいろいろと気になってきます。馬券も吟味して買えば、レースを見るときドキドキ度が全然違い、買った馬の勝ちを信じて名前を呼ぶようになり、次走も気になってしまうのです。

走る馬たちを知ってドラマを見たいから(当たりたいけど)、自分ルールで楽しんでいます。

- ・買うのはGⅠレースだけ
- ・金額は500円まで

・予想は自力で

レース後の騎手の談話や、騎手装着カメラ「ジョッキーカーメラ」動画も楽しみに見えています。馬もみな、勝ちっぷり、負けっぷりが個性様々で、やはり「推し馬」も出てきます。2022年の天皇賞(秋)で、当時最強のイクイノックスをあわや下すか、というくらいに後続を大きく引き離して駆け抜けたパンサラッサが大好きでした。

4. 「競馬場でレース観戦」

「競馬場でレース観戦」するのも楽しいものです。馬たちは、テレビで見るよりもずっと美しく、ずっと速く、ずっと重く駆け抜けます。たくさんの競馬好きの人たちと一緒に、自分が信じて買った馬の名前を呼んで観戦するのは本当に最高です。

昨年夏に、札幌競馬場で開催される中央競馬会主催のレース、札幌記念(GⅡ)を見に行き行って体感しました。生き物の迫力に圧倒され、周囲の人たちの「外れたあ」に頷きながら、また見に来たいと思わされました。キッチンカーも出店しているし、可愛いぬいぐるみなどの競走馬のグッズも買えるし、入場料は100円。馬券がお小遣いの範囲であれば、安全・充実の楽しみ方だと思います。



写真-2 札幌記念で購入したグッズ
ぬいぐるみはパンサラッサ号

5. 「引退名馬・種牡馬に会いに行く」

そして、北海道に住んでいるんだもの、「引退名馬・種牡馬に会いに行く」のも特別感がある楽しみ方です。

北海道は、日本最大の軽種馬生産地です。2023年の日本の生産頭数7,796頭のうち、98%が北海道で生まれたとのこと(JRAホームページより)。

胆振地方、日高地方には多くの生産牧場があり、そこには競走馬を引退して種牡馬として働く馬、さらにその先の余生を過ごす馬が多くいます。彼、彼女たちの様子を見学させてもらえる牧場もあり……ならばこれは会いに行くしかない！

2年前、家族と一緒にに行ってきました。「気まぐれ」「破天荒」と形容されたゴールドシップです。GⅠで6勝を挙げている反面、一番人気を集めたレースでスタートに出遅れて約120億円の馬券を紙くずにしたり、まったく凡走したりと逸話が多い馬です。

新冠町の牧場にいる彼は、大柄で、葦毛と呼ばれるグレーだった毛色は真っ白になっていて、とてもきれいでした。この人(馬)が東京や阪神競馬場で激走したのかと思うと、北海道で間近に会えることが不思議に思われ、自分が北海道在住であることの幸運を思うのです。

6. おわりに

このようにして家族を巻き込み、夫や長男は共通の趣味仲間ともなり、ゆるく熱く楽しんでいます。

ただ、光あるところには影もあり、鞭を使用する日本競馬スタイルや、生産牧場さんの苦勞、競争能力を失った馬たちのその後など、多々思うところがあります。

馬と、競馬にかかわる人々を思いながら、双方の無事を祈りつつ楽しんでいますと思っています。

(なお、馬の見学に興味を持たれた方は、見学の可・不可やルールなど、繋養先の牧場のホームページや関係機関の周知を確認してください。)

佐々木 裕 子(ささき ゆうこ)

技術士(建設部門)
伊藤組土建株式会社

